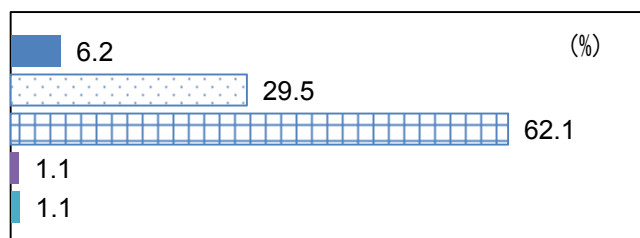


## ● 県民・企業アンケート調査結果について

- ・ 一般県民：2,000人 → 調査票回収数 1,181人（回収率59.1%）
- ・ 県内企業：1,000社 → 調査票回収数 619社（回収率61.9%）

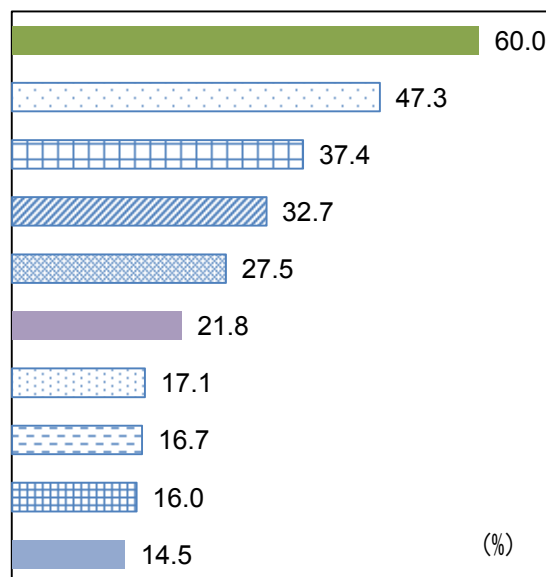
- 秋田県の森林の現状に関する認識度について、「手入れが行き届いた森林が多い」と回答した割合は全体で6.2%（県民6.1%、企業6.5%）、「手入れが不十分な森林が多い」と回答した割合29.5%（県民28.5%、企業31.3%）となっており、手入れが不十分、わからないと感じている県民が多いことから、いっそうの整備を進めるとともに、もっと森林に目を向けてもらう取り組み等を行う必要があります。

- 手入れが行き届いた森林が多い
- 手入れが不十分な森林が多い
- ▨ わからない
- その他
- 無回答



- 税を活用しての大切と思う取り組みについて、「松くい虫やナラ枯れ被害で枯れた木を、景観の向上や安全の確保のため処理」と回答した割合は全体で60.0%（県民58.7%、企業62.5%）が最も高く、次いで「生育の思わしくないスギ林を、ナラなどの広葉樹が混じり合った災害に強い森林へ誘導」が全体で47.3%（県民48.4%、企業45.2%）、「身近な里山林等に散策道や東屋等を整備し、県民が気軽に森林とふれあえる公園として活用」が全体で37.4%（県民36.9%、企業38.3%）と続いており、これら取り組みを必要とする県民が多いと考えられます。

- ・ 松くい虫やナラ枯れ被害で枯れた木を、景観の向上や安全の確保のため処理
- ・ 生育の思わしくないスギ林を、ナラなどの広葉樹が混じり合った災害に強い森林へ誘導
- ・ 身近な里山林等に散策道や東屋等を整備し、県民が気軽に森林とふれあえる公園として活用
- ・ 児童や生徒を対象とした森づくり体験への支援
- ・ かつて森林であった牧場跡地等に広葉樹を植栽し、野生動植物が生活する環境を整備
- ・ 森づくりへの理解を深めるための普及啓発・研究
- ・ 森林ボランティア団体が取り組む森づくり活動の支援
- ・ 自然に親しみ森や木との関わりを学ぶための指導者の育成
- ・ 県民による自主的な森づくり活動の支援
- ・ 植樹祭など市町村が行う森づくり活動への支援



- 森づくりに関する16項目の取り組みにおける重要度について、選択肢指数を求め順位付けしたところ次のとおりです。上位の項目については県民・企業とも同様の傾向であり、このような取り組みへの期待が高いと考えられます。

全体 順位	項 目	県民 順位	企業 順位
1	山崩れや洪水等災害を防止する森づくり	1	1
2	雨水を蓄え、豊かな水を育む森づくり	2	2
3	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化防止に貢献する森づくり	3	3
4	森林を手入れする人を確保し、育てる取り組み	4	4
5	伐採後、植栽されず放置されている場所の解消	5	5
6	木材を生産するための森づくり	6	8
7	自然に親しみ森や木との関わりを学ぶ教育の充実	7	7
8	人の心を和ませ、安らぎの場を提供する森づくり	9	6
9	野生動植物が生息できる森づくり	8	11
10	木材の優先的な活用やそれを推進する取り組み	10	9
11	景観の向上を図る森づくり	12	10
12	森づくり活動を推進する森林ボランティアの育成	11	12
13	森づくりに関する調査研究の実施	13	13
14	企業による植樹活動等の支援	14	15
15	イベント等による森づくり活動の普及啓発	15	16
16	山菜やきのこ等を生産する森づくり	16	14

- 自由な意見として

- ・ 公益的機能の向上や災害防止に向けた「災害に強い森林の育成」
- ・ 身近な里山が荒れているので「里山の再生に向けた森林の整備」
- ・ 枯れた松などがある「道路沿いや観光地の森林の景観対策」
- ・ 身近な場所で「森林とふれあえる場所の提供」
- ・ 森林づくりに必要な「指導者や若手の育成」
- ・ 小さな子供たちへの「環境教育の推進」
- ・ 不安となっている「クマの出没増加への対策」
- ・ 親子で学べる「木育活動の推進」
- ・ イベント等の開催がわかるような「事業の情報発信」

などの意見が多くあげられています。

アンケートの結果や意見を基に、事業目的等を踏まえながら県民のニーズに合った対策を進める必要があります。